

重点戦略 5 地球との共生

関連するエスビー食品ミッション
 ① 環境負荷の低減
 ② 社会・環境に配慮した製品の提供

植物と食のサステナブルな事業を通じて、世界中の生産者の方々とともに地球との共生を目指します。重点施策として「持続可能な調達」の推進と「産地から食卓までの環境負荷低減」に取り組み、事業活動を通じた「環境負荷の低減」「社会・環境に配慮した製品の提供」を推進していきます。

重点施策① 持続可能な調達の推進

より良い製品を作り続けるためには、安全・安心で高品質の原材料を安定的に調達することが必要不可欠です。そのために、原材料調達の段階から産地の自然環境や社会に配慮した責任ある取組みを行っています。

◎ 関連部門：調達、商品開発、生産

創業当時から、スパイスとハーブにこだわった製品づくりは、エスビー食品の最大の強みです。当社にはスパイスとハーブを調達する専門の部署があり、メンバーは世界中の産地をターゲットに、日々、現地の天候や栽培状況、政治情勢を収集しながら、「サステナビリティ調達基本方針」に則ってより良い原材料の調達に奮闘しています。産地の気候によってその品質や収量は影響を受けやすく、当社の品質基準に合った原材料を毎年安定的に調達する苦労は少なくありません。産地を分散させたり、契約栽培を進めたりと、さまざまな工夫をしながら安定的な調達に努めています。今後も産地を定期的に訪問し、生産者・現地加工メーカーとの信頼関係の強化を図りながら、より良い原材料調達の取組みを継続していきます。



執行役員 開発生産グループ
 スパイスコントロール室室長
 兼 供給部担当
 三浦 兼仁

サステナビリティ調達基本方針

当社では「サステナビリティ調達基本方針」を策定し、これに基づき原材料や資材を調達しています。

サプライチェーンを構築するお取引先様と協働で、安全・安心、かつ、環境や社会にも配慮した原材料、資材、製品の調達に努めることで、持続可能な社会の実現に向けて社会的責任を果たします。

サステナビリティ調達基本方針
<https://www.sbfoods.co.jp/company/sustainability/society/procurement/policy.html>

サステナビリティ調達基本方針

- ① 安全・安心
- ② 遵法・調達倫理
- ③ 環境・人権への配慮
- ④ 公正な取引
- ⑤ 共存共栄

安全・安心への取組み

当社では、使用するすべての原材料について原材料基本情報の収集を行い、データベース化し、随時更新を行っています。管理項目は、原材料の産地情報、製造工程、添加物、アレルギー、遺伝子組換え情報など多岐にわたります。特にスパイスやハーブは、品質

に関わる香り・辛みなどの項目や、残留農薬などの安全・安心に関わる分析項目に対して定期的に評価を行っており、今後も徹底した品質管理を継続していきます。

持続可能な調達に関するコミットメント

企業理念「食卓に、自然としあわせを。」の実現に向け、エスビー食品における基幹原材料である「香辛料」、環境・生態系・人権などの国際的な課題を抱える「パーム油」「紙」を、持続可能な調達における重要原材料と捉えました。2019年5月よりステークホルダーの皆様へのコミットメントとして、中長期的な調達方針をホームページに公開しています。コミットメントの実現を通じて、国際目標でもあるSDGsに積極的に取り組んでいます。

「持続可能なパーム油の調達」については、RSPO認証パーム油への切替え率を2023年度末までに

100%にすることを目標としており、2023年3月までの切替え率は21.4%でした。また、「持続可能な紙の調達」については、FSC認証紙への切替え率を2023年度末までに100%にすることを目標としており、2023年3月までの切替え率は73.6%でした。いずれの目標も2023年度中に達成見込みです。

そして、これまでの取組みを受け、2030年に向けた新たなコミットメントを以下のように制定しました。

持続可能な調達に関するコミットメント
<https://www.sbfoods.co.jp/company/sustainability/society/procurement/commitment.html>

コミットメント1

持続可能な香辛料調達

主要香辛料^{※1}について、2030年を目標として安全・人権・環境・コンプライアンスに配慮した持続可能な調達を目指します。目標達成に向けた調査・分析・改善活動の3つのステップを設定し、現在はサプライヤーへの調査活動を実施しています。これまでに、サステナビリティ調達基本方針の5項目に基づいたアンケート調査を実施し、その結果について内容を精査してきました。現在はTV会議を用いることで、より先進的な取組みを行っているサプライヤーへの詳細なヒアリングを実施しています。また、フェアトレード^{※2}・有機認証香辛料^{※3}の調達や契約栽培の拡大も引き続き進めていきます。

※1 主要香辛料：こしょう・唐辛子・マスタード・パセリ・ローレル・オレガノ・わさび・ターメリック・コリアンダー・クミン

※2 国際フェアトレード認証

目的	開発途上国の原材料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、開発途上国の生産者・労働者の生活改善と自立を促し、経済格差をなくす「貿易の仕組み」を国際社会の中で構築する	
----	--	--

※3 有機JAS認証

目的	農林水産省が定めた有機JAS規格に基づいて有機栽培されたものであることを保証し、消費者にも有機栽培に基づいた商品であることを明示する	
----	--	--



有機JAS・フェアトレード認証商品

コミットメント2

持続可能なパーム油の調達

エスビー食品グループの全製品に使用しているパーム油を2023年度中に100%RSPO認証油^{※4}に切り替え^{※5}、今後もこの取組みを継続するとともに、2030年度を目標として産地、サプライヤーとの連携を通じて、持続可能な調達実現のためのエンゲージメントの構築^{※6}を目指します。

※4 RSPO認証

目的	持続可能なパーム油の生産と利用を促進すること	
----	------------------------	--

※5 100%RSPO認証（マスパランスとブックアンドクレームの組み合わせにより）達成を目標

※6 定期的な現地調査、サプライヤーを通じた農園や現地工場との連携、および小規模農家支援、苦情処理手順の構築

コミットメント3

持続可能な紙の調達

エスビー食品グループのカレーなどのルウ製品、レトルトおよびチューブ入り香辛料のパッケージに使用している紙について、2023年度中に100%FSC認証紙^{※7}に切り替えます。以降、対象製品を瓶入り香辛料のラベルや紙を使用している製品の袋などにも拡大し、2030年度までにエスビー食品グループの製品パッケージに使用する紙を100%FSC認証紙に切り替えることを目指します。

※7 FSC認証

目的	経済的にも持続可能な責任ある森林管理を世界に普及させること	
----	-------------------------------	--

重点施策② 産地から食卓までの環境負荷低減(CO₂、廃棄物等の削減)

当社グループでは、企業理念「食卓に、自然としあわせを。」のもと、地球環境保全を経営上の重要な課題の一つとして、「環境基本方針」を掲げ、企業活動から生じる環境負荷の低減および循環型社会への貢献を目指しています。

◎関連部門：商品開発、供給、調達、生産、営業、マーケティング

エスビー食品グループは、環境基本方針に基づき、環境負荷低減活動を推進しています。温室効果ガス(CO₂)の排出量削減に向けては、中長期目標として2021年10月に「2050年カーボンニュートラル」目標を定めました。また、基本方針に基づいた環境マネジメント組織を作り、工場、管理・営業部門の各事業所にて、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステム(EMS)を運用しながら、省エネルギー、廃棄物の削減といった各職場の環境負荷の低減を目的とした改善活動に取り組んでまいります。

環境基本方針
<https://www.sbffoods.co.jp/company/sustainability/environment/policy.html>



エスビー食品グループ全体のCO₂排出量削減目標

- 1 2050年カーボンニュートラルを目指します。
- 2 2030年までにCO₂排出量50%削減を目指します。(2019年度比 スコープ1・2相当)
- 3 2030年までにサプライチェーンCO₂排出量30%削減を目指します。(2019年度比 スコープ3相当)

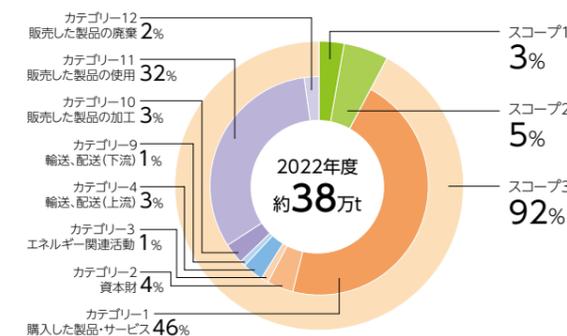
CO₂排出量の削減

2022年度における当社グループのCO₂排出量は、事業活動に伴う直接排出のスコープ1と間接排出のスコープ2の合計で約2.9万t-CO₂でした。そして、製品の使用・廃棄・輸送、従業員の出張・通勤、その他の排出であるスコープ3を加えたサプライチェーン全体のCO₂総排出量は約38万t-CO₂で、スコープ3が全体の約9割を占めています。スコープ1およびスコープ2については、売上増に伴う生産量の増加のため、2021年度と比較してCO₂総排出量の削減にはいたりませんでした。工場や各事業所の照明のLED化・人感センサー化、老朽設備の更新、空調や冷凍・冷蔵機の計画的な更新を順次行い、省

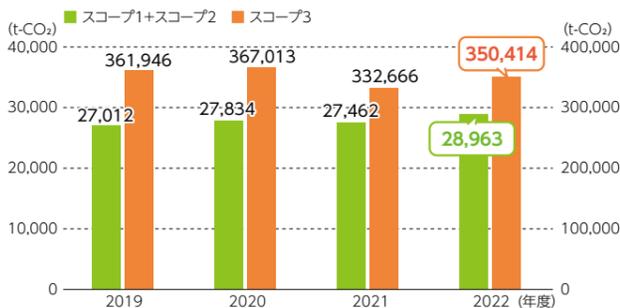
エネルギー化を進めています。引き続き、省エネルギー活動やCO₂発生量の少ない燃料への転換、バイオマス、太陽光をはじめとする再生可能エネルギー利用などの検討を推進していきます。

また、スコープ3の中では、購入した原材料由来のCO₂と、販売した製品の使用時に排出されるCO₂が大部分を占めています。そのため、原材料サプライヤーとのCO₂排出量削減に向けた対話・連携を強化しながら、環境負荷の低い原材料の調達や、電子レンジ対応資材の導入、時短調理の提案などに引き続き取り組んでいきます。

2022年度のCO₂排出量割合



CO₂排出量の推移



※CO₂排出量は第三者機関によるレビューを実施しています。
 ※一部グループ企業の事業譲渡を予定していることから、基準年の2019年度より実績を修正しています。

物流における環境負荷低減に向けた取組み

モーダルシフトの推進と物流効率化

物流におけるCO₂排出量削減のために、車を利用した陸上輸送から、より環境負荷の低い鉄道や船舶輸送への転換(モーダルシフト)に取り組んでまいりました。2021年度に続き2022年度も、遠距離配送の物量割合が相対的に縮小する一方で近距離配送の物量割合が増加する傾向からモーダルシフト率は低下しました。製品輸送の積載効率の向上、原料・資材の工場への効率的な納品などを進めることで、これからも継続的なCO₂排出量削減に取り組んでいきます。

資材軽量化によるCO₂排出量削減

都市部におけるトラック輸送の割合が増加したこともあり、2022年度の輸送時におけるCO₂排出量はほぼ横ばいでしたが、製品に使用する資材の軽量化など、CO₂排出量を削減する取組みは継続的に進めています。

軽量化に際し、最大の課題は強度の確保です。圧縮強度試験や保管試験を実施し、その安全性を確認しています。2023年度も他の製品を対象を広げて軽量化を進め、物流における環境に配慮した取組みを継続していきます。

廃棄物の削減とリサイクルの促進

当社グループ全体の2022年度の廃棄物等総排出量^{※1}は、2021年度対比で約1.0%(69t)削減され、再資源化率^{※2}は94.6%になりました。

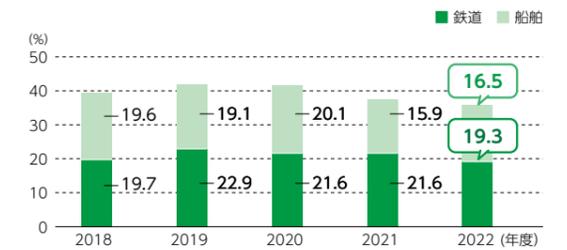
そのうち、食品廃棄物については、2022年度は2021年度とほぼ同等の実績になりました。引き続き改善に取り組んでいきます。

廃棄物等総排出量



※1 廃棄物等総排出量：事業者がその敷地外に、排出・搬出したものの(製品・サービスなどの提供に伴い出荷したものを除く)。
 ※2 再資源化率：廃棄物等総排出量のうち、再使用、再生利用および熱回収量(サーマルリサイクル)の占める比率。

幹線輸送におけるモーダルシフト率推移



輸送におけるCO₂排出量と輸送トンキロの推移



水使用量の削減

当社グループでは、水使用量を削減するために、生産品目群の整理、製造工程の見直しや工場の再編を進めています。2022年度は2021年度と比較して、工場での生産増加に伴い水使用量は増加しましたが、増加幅を最小限に抑えています。

水使用量の推移

